

「レントゲン」は「レントゲン」

小川 清

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長



新聞に次のような記事があった。ある電力会社の不祥事について「こんな会社からもう電気は買いたくないと思いつつ、でも家中のコンセントを抜いて回るわけにもいかない」と書いたら、読者から「ここで抜くべきはプラグです。コンセントは壁にある差し込み口の方」と指摘されたそうである。その記者は、日本人のほとんどが「コンセント」を抜くって言うよな」と思いつつ、慣用は疑うべしと書いていた。

最近、診療放射線技師の間で「レントゲン」という言葉が使用されていると感じていたら、先輩から「レントゲン」という言葉が最近よく聞かれるが、どうなっているのかと詰問された。過去にも全国会長会議において「レントゲン」を使用するのはおかしいのではと指摘いただいたことがある。周りの診療放射線技師にこの件について意見を求めると、「レントゲン」をよく使う技師はいなかったが、時々使うという診療放射線技師がいること、使うことにそれほど抵抗がない診療放射線技師がかなりいることが分かった。過去から現在まで、医療機関では医師や看護師が「レントゲン」をよく使っており、患者さんにも分かりやすいことから診療放射線技師も患者相手に使用する機会が多くある。企業のホームページや商業誌の中でも「レントゲン」という言葉が散見され、また診療報酬点数書の中でも「レントゲン」は全て「エックス線」となっているが、Q/A解説書には「レントゲン」が多く見られる。

本会はエックス線を発見したレントゲン教授を、「レントゲン週間」と銘々したイベントを毎年11月に開催している。また島津製作所ではレントゲン博士の遺徳を顕彰すべく、博士の命日にレントゲン祭を行っている。このようにレントゲンという名称は、X線を発見したW. C. レントゲンという人名だけに使用するのが正しい使い方と考える。一方医療の分野では、患者中心の医療の考え方が広まり、医療者は十分に説明をし、患者は説明を理解し納得した上で、自らの医療を選ぶことが求められている。そして医療従事者と患者との良好なコミュニケーションを築くためには、病院で使われる言葉を分かりやすく工夫して伝えることが重要といわれている。しかし、医療従事者の説明に出てくる言葉が分かりにくいことが、患者の理解と判断の障害になっていると国立国語研究所は指摘している。

われわれは診療放射線技師であり、エックス線だけを扱っているのではないので、職名として「レントゲン技師」と言われることは許容できないが、「レントゲン」が患者さんには受け入れやすく分かりやすいという観点から、また医師や看護師の間に広く使われていることに対して、必要以上に問題化することはないと考えるがいかがだろうか。しかし、診療放射線技師の間では「レントゲン」は使わない。

今回、ある診療放射線技師から、学生時代に教員から「『君たちは放射線を扱う人であり、レントゲンだけではないのだから職名に責任を持ちなさい』と言われました」と告げられた。ご指導いただいたこの大学の教員にお礼申し上げる。

本来、科学的な正しい言葉を使用して説明し、市民とコンセンサスを得ていくことが筋道とは思うが、正しさと分かりやすさの間で使い分け、日常業務の中で検査の説明を分かりやすく行い、患者さんの理解、納得を得ていくことも大切と考える。